

2022年3月期 業績概要

窪田 顕文

アンリツ株式会社
取締役 専務執行役員 CFO

2022年4月28日



東証 プライム
証券コード：6754
<https://www.anritsu.com>

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目 次

1. 事業概要
2. 2022年3月期 連結決算概要
3. 2023年3月期 通期業績予想（連結）
4. 当社の取り組みについて

1. 事業概要

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展



- ▶ モバイル市場 : 5G、5G利活用
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : データセンター、光NW、無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 基地局建設保守、電子部品、無線設備

PQA事業

食の安全・安心



- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出機
- ▶ 重量選別機

その他



- ▶ 環境計測
- ▶ センシング & デバイス

(セグメント別売上比率) 2022年3月期 実績(連結) : 1,054億円

通信計測 70%			PQA 21%	その他 9%
モバイル 57%	ネットワーク・インフラ 26%	エレクトロニクス 17%		

(通信計測事業 地域別売上比率)

日本 17%	アジア他 45%	米州 24%	EMEA 14%
--------	----------	--------	----------

PQA : Products Quality Assurance

2-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比受注は3%増、減収減益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前期実績	当期実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	1,076	1,107	31	3%
売上高	1,059	1,054	△ 5	△ 1%
営業利益	197	165	△ 32	△ 16%
税引前利益	198	172	△ 26	△ 14%
当期利益	161	128	△ 33	△ 20%
当期包括利益	199	161	△ 38	△ 19%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

2-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 通信計測：半導体不足により前年同期比減収減益だが、欧米市場の5G拡大に期待

▶ PQA：海外市場を中心に売上が回復、前年同期比増収減益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前期実績	当期実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	748	733	△ 15	△ 2%
	営業利益	177	152	△ 25	△ 14%
PQA	売上高	214	220	6	3%
	営業利益	13	12	△ 1	△ 12%
その他	売上高	97	101	4	4%
	営業利益	18	11	△ 7	△ 38%
調整額	営業利益	△ 12	△ 10	2	-
合計	売上高	1,059	1,054	△ 5	△ 1%
	営業利益	197	165	△ 32	△ 16%

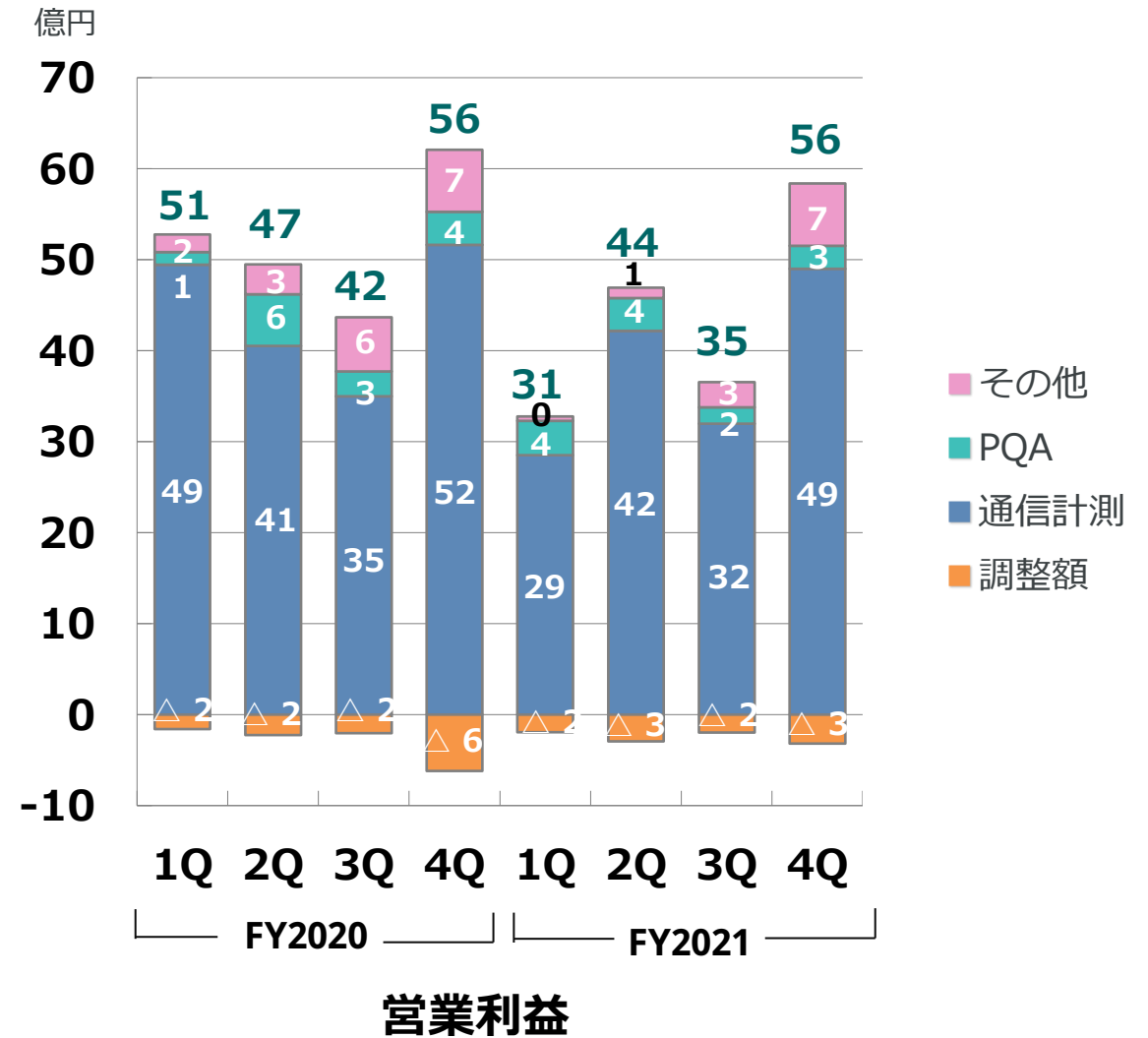
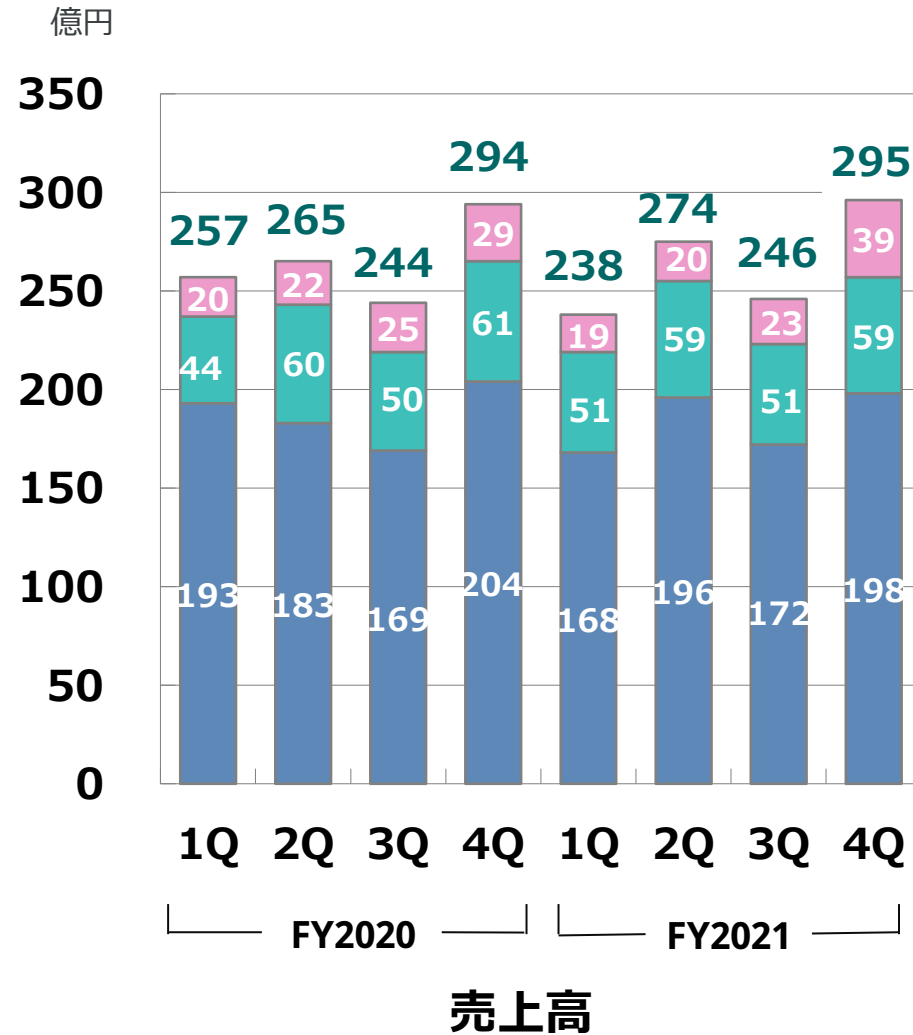
(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

PQA：Products Quality Assurance

2-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 4Q(1-3月)営業利益率：連結 19%, 通信計測 25%, PQA 4%



(注) 値はそれぞれで四捨五入

セグメント 2022年3月期（4-3月）の状況

➡ 通信計測：5Gサービスは初期導入から、機能拡充のフェーズに移行。
データセンター高速化は順調に進展

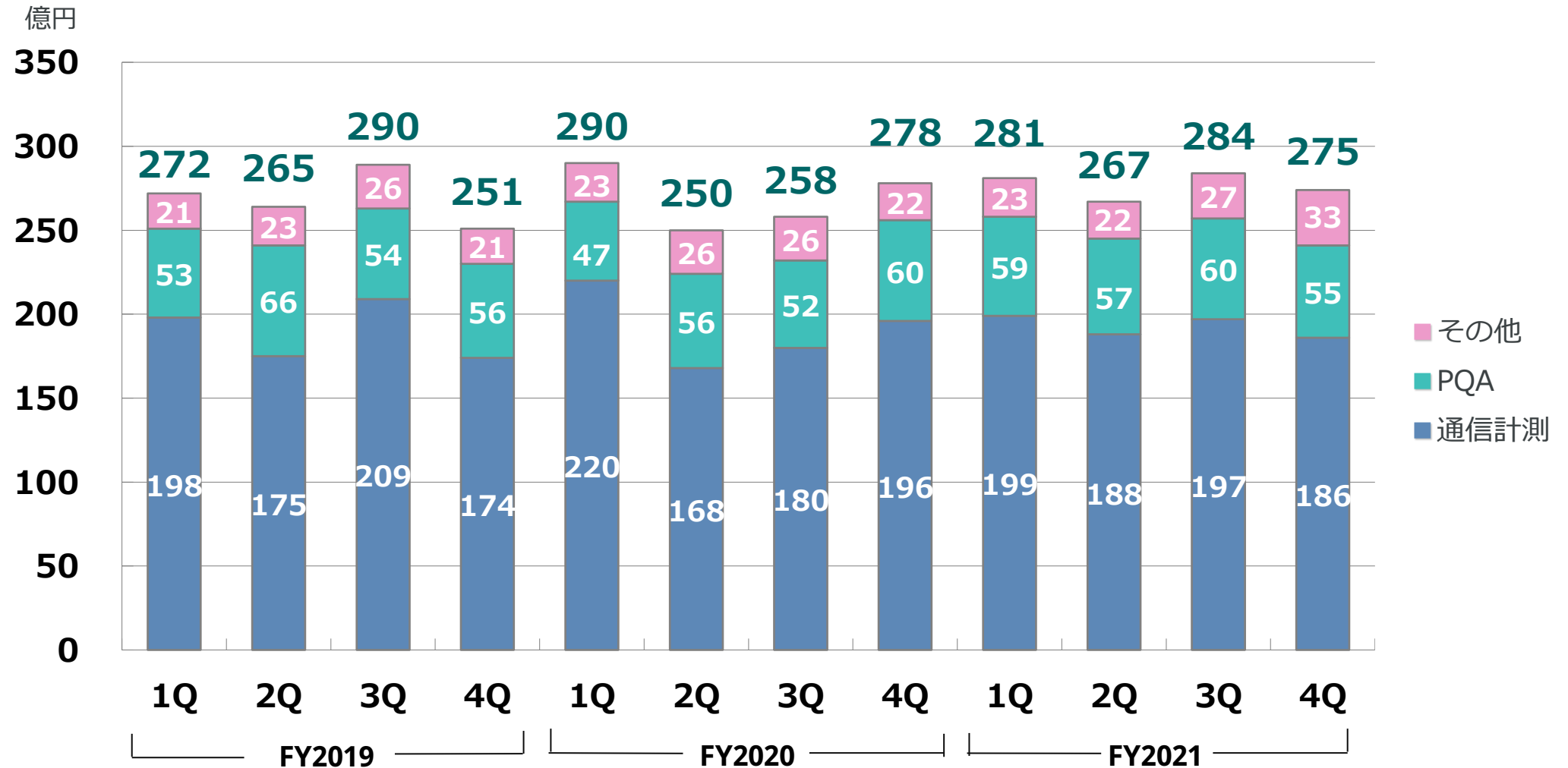
モバイル	5G開発需要は欧米市場の拡大に期待
ネットワーク インフラ	データセンター等への投資は順調に推移
アジア他・日本	5Gサービスへの投資は緩やかだが、堅調
アメリカ	Sub6GHz（Cバンド）の基地局敷設による需要回復に期待

➡ PQA：アジアやアメリカ等、海外市場の需要が回復

2-5. 受注高推移

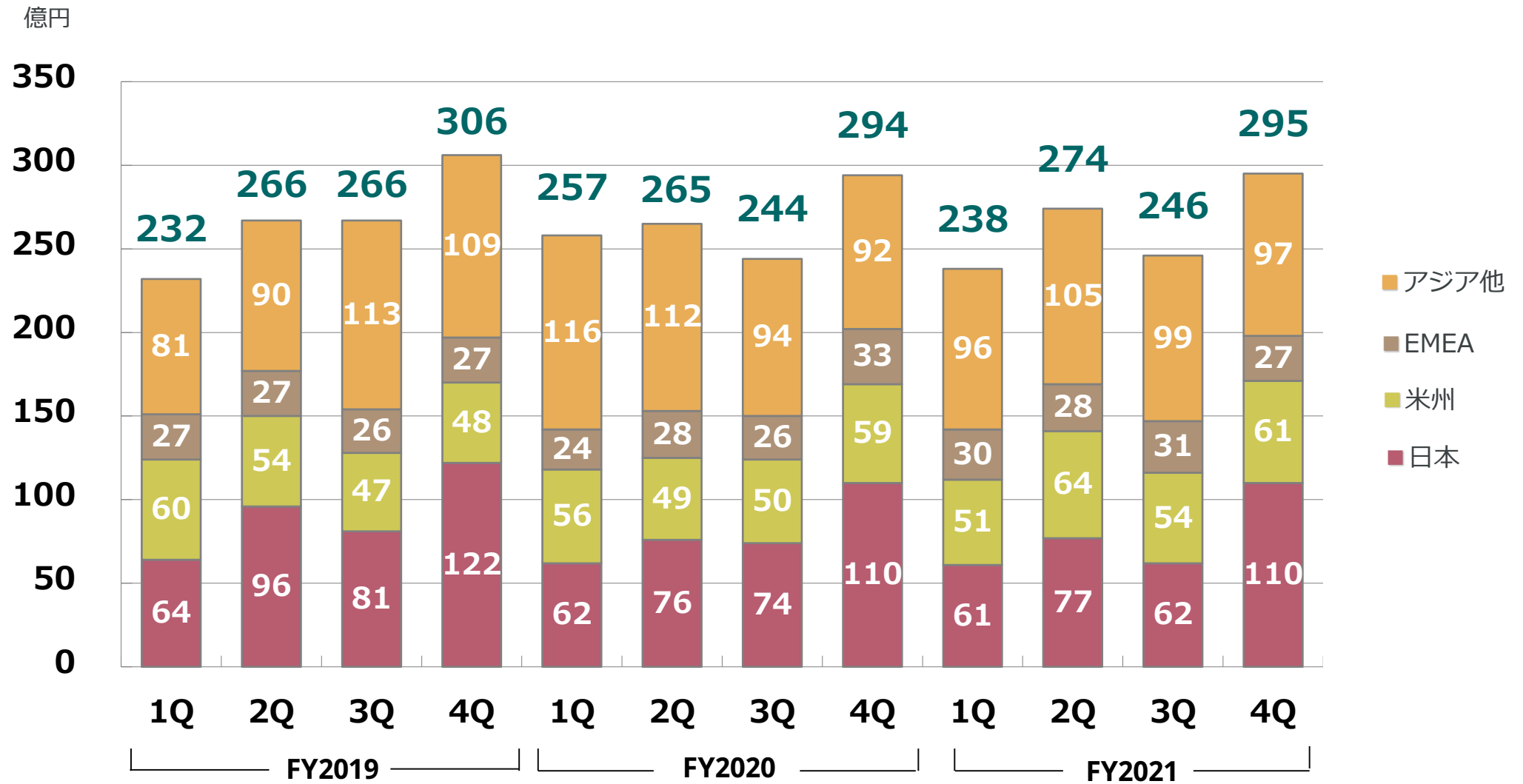
通信計測：FY21年度受注高 771億円、前年度比 1%増

PQA：FY21年度受注高 231億円、前年度比 7%増



(注) 値はそれぞれで四捨五入

2-6. 地域別売上高推移



(注) 値はそれぞれで四捨五入

2-7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率15.2%

FY2021 (4-3月)

- ① 営業CF : 160億円
- ② 投資CF : △ 87億円
- ③ 財務CF : △134億円

フリーキャッシュフロー
(① + ②) : 73億円

現金同等物期末残高
457億円

有利子負債高
65億円

(注) 値はそれぞれで四捨五入

内訳

(単位 : 億円)

↓ 仕入債務 6		
売上債権 9		
減価償却 51		
税引前利益 172		
棚卸資産 △34	設備投資 △29	配当金 △61
税金 △40	子会社の取得 △40	
↑ その他 △4*	その他 △18	
		自己株式取得 △51
		その他 △22

*その他の主な内容 : 前受金、預り金など

営業CF 160

投資CF △87

財務CF △134

3-1. 2023年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 年間を通して部品不足の影響を受けるが、5G関連の需要の拡大を見込む

			2022/3期	2023/3期	
			前期実績	通期予想	前年同期比 増減額 前年同期比 増減率(%)
売上高			1,054	1,150	96 9%
営業利益			165	190	25 15%
税引前利益			172	190	18 11%
当期利益			128	140	12 9%
通信計測	売上高		733	780	47 6%
	営業利益		152	175	23 15%
PQA	売上高		220	240	20 9%
	営業利益		12	13	1 11%
その他	売上高		101	130	29 29%
	営業利益		11	12	1 7%
調整額	営業利益		△ 10	△ 10	0 -

（参考）FY21 為替レート

FY22 想定為替レート

：1米ドル112円、1ユーロ=131円

：1米ドル120円、1ユーロ=135円

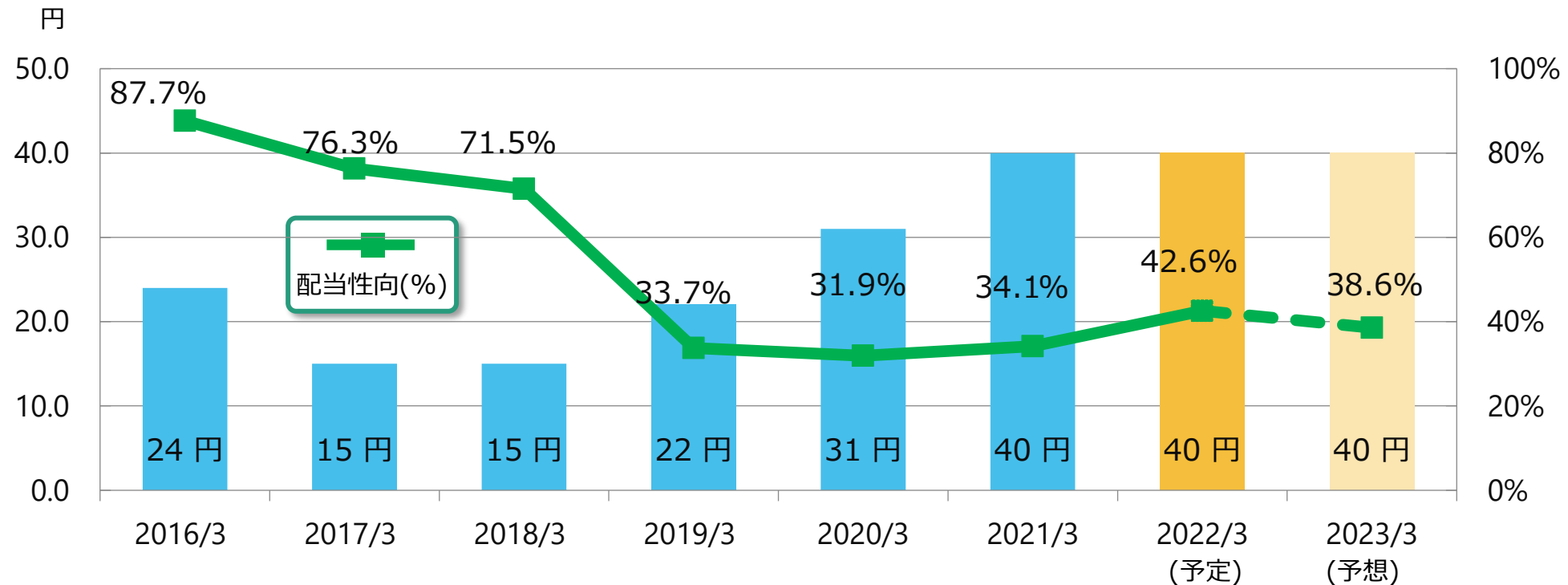
（注） 2022年1月4日に統合完了した高砂製作所の業績は、その他事業に含まれています。

（注） 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

3-2. 配当予想について

2022年3月期 総還元性向：81.3%（配当54億円、自己株50億円）

	年間配当	当期利益	配当性向	ROE
2022年3月期	40円	128億円	42.6%	11.5%
2023年3月期	40円	140億円	38.6%	12%



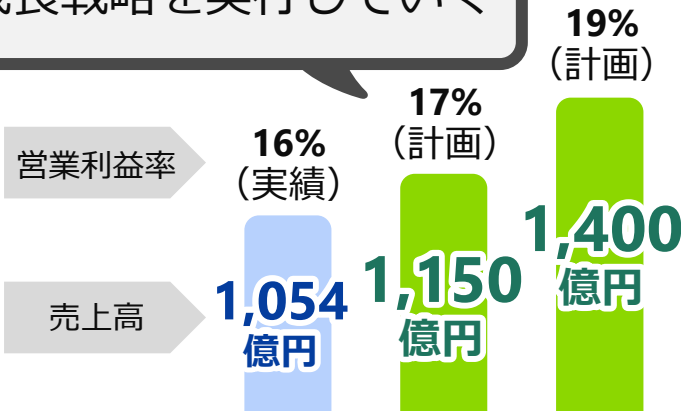
4．当社の取り組みについて

濱田 宏一

アンリツ株式会社
代表取締役 社長

「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。

着実に成長戦略を実行していく



GLP2023

5Gピークに向けて
成長の3年

新たな芽を
成長させる3年

2020VISION

利益ある
持続的成長
強い財務体質
を作った10年

FY2030

4つのカンパニーと
研究所の成長により
安定した収益をあげる企業

売上高 **2,000** 億円
営業利益率 20%

4-2. GLP2023重点分野 成長戦略を実行

2022年度に実行

2021年度に実行

通信計測の
拡大加速

クラウド

自動車

5G

5G利活用

AK Radio Design

5G LABの開設
AK Radio Design社

食品

ローカル5G

NEC
ネットエスアイ
と業務提携

医療・医薬品

モニタリング

高砂製作所

高砂製作所
2022年1月4日
M&A完了

光センシング

EV、電池

NEMS

グラフェンのナノスケール
微細加工技術を確立

新市場開拓
利益率改善

光

6G

通信計測
カンパニー

インフィニス
カンパニー

アンリツ
グループ

戦略的コーポレート
強い“ものづくり”

環境計測
カンパニー

センシング
& デバイス
カンパニー

先端技術
研究所

*インフィビスカンパニー：PQA事業の推進

*EV: Electric Vehicle

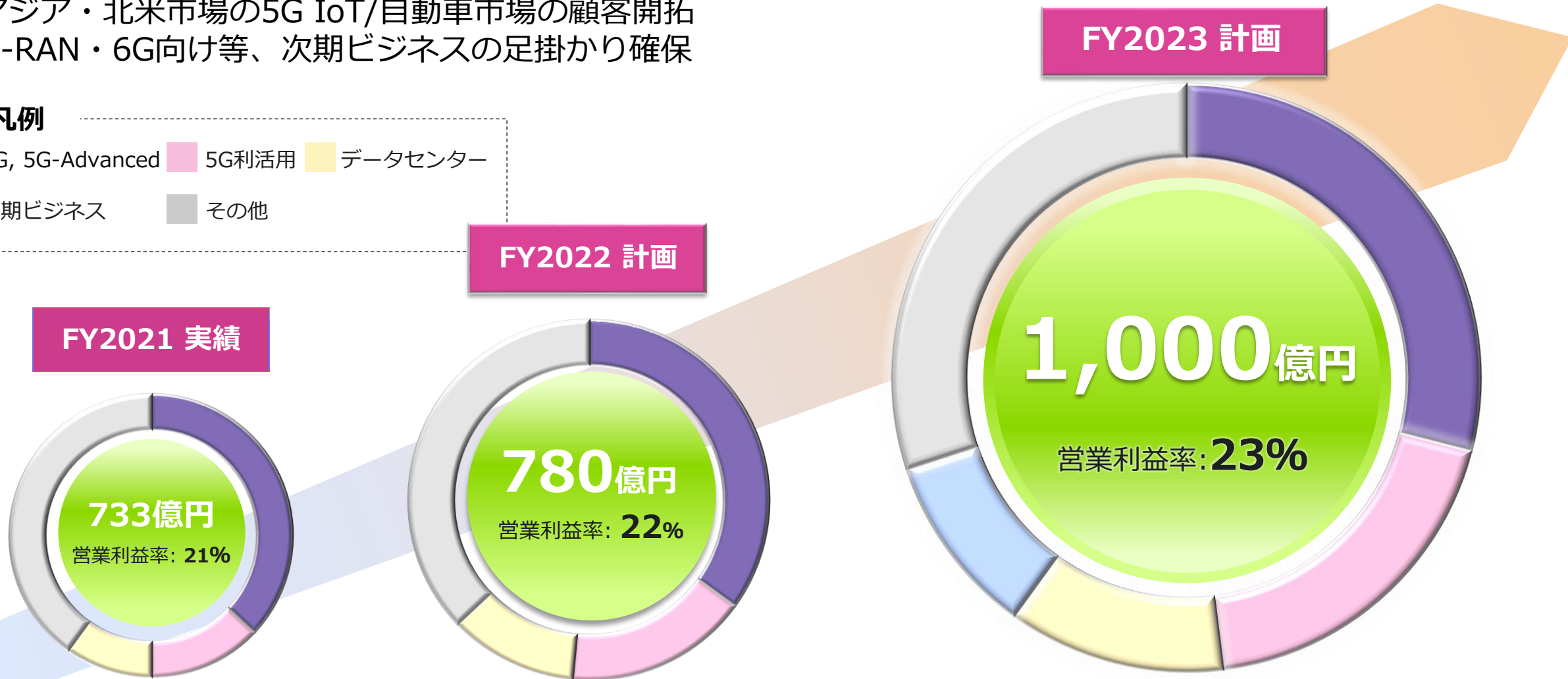
*NEMS: Nano Electro Mechanical Systems

4-3. 通信計測事業：GLP2023売上高・営業利益計画

2022年度の取組

- ・欧米市場の5G需要獲得
- ・アジア・北米市場の5G IoT/自動車市場の顧客開拓
- ・O-RAN・6G向け等、次期ビジネスの足掛かり確保

凡例



(O-RAN: Open Radio Access Network)

グラフはイメージ

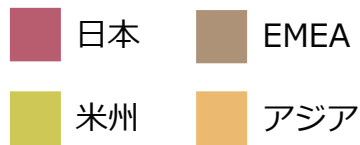
4-4. PQA事業：GLP2023売上高・営業利益計画

2022年度の取組

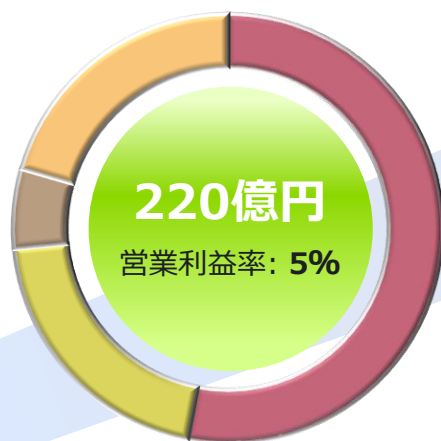
新たな需要獲得とITを活用した利益改善

- ・自動化/省力化ニーズへの対応
- ・欧米の販売力強化と現地SE対応力強化による市場拡大
- ・利益率改善に向け医薬品市場用の新製品を開発

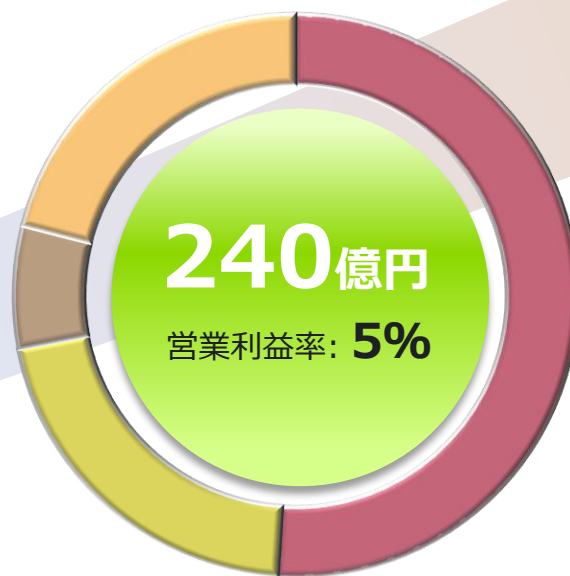
凡例



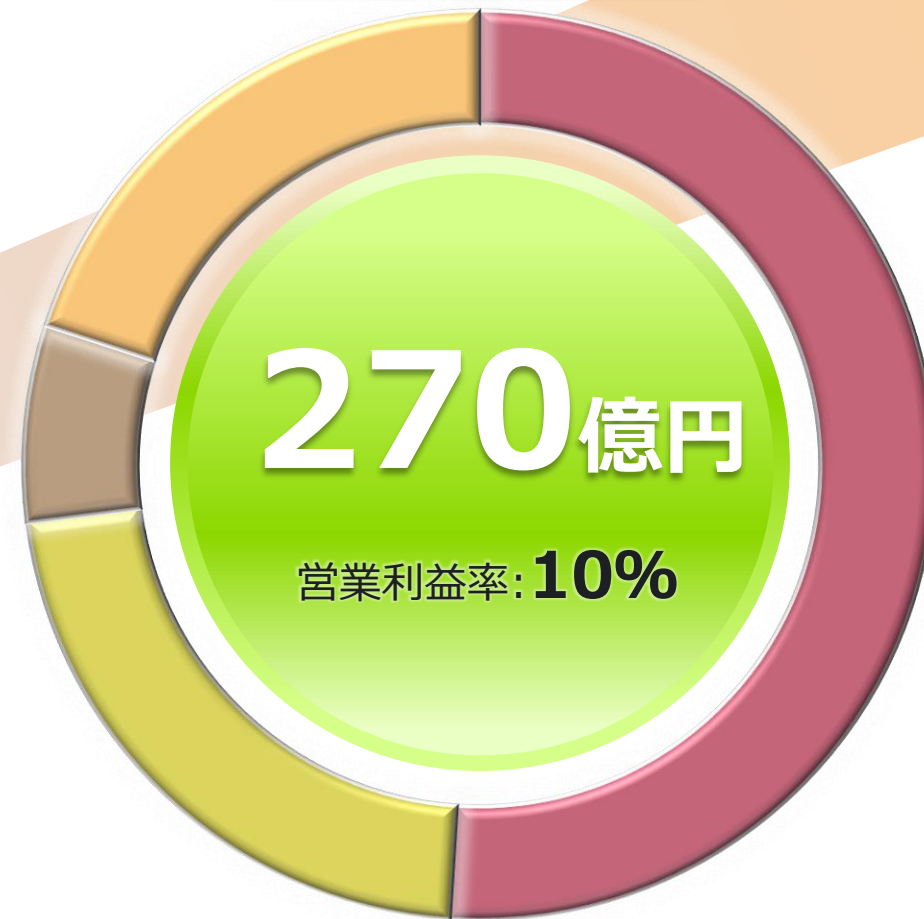
FY2021 実績



FY2022 計画



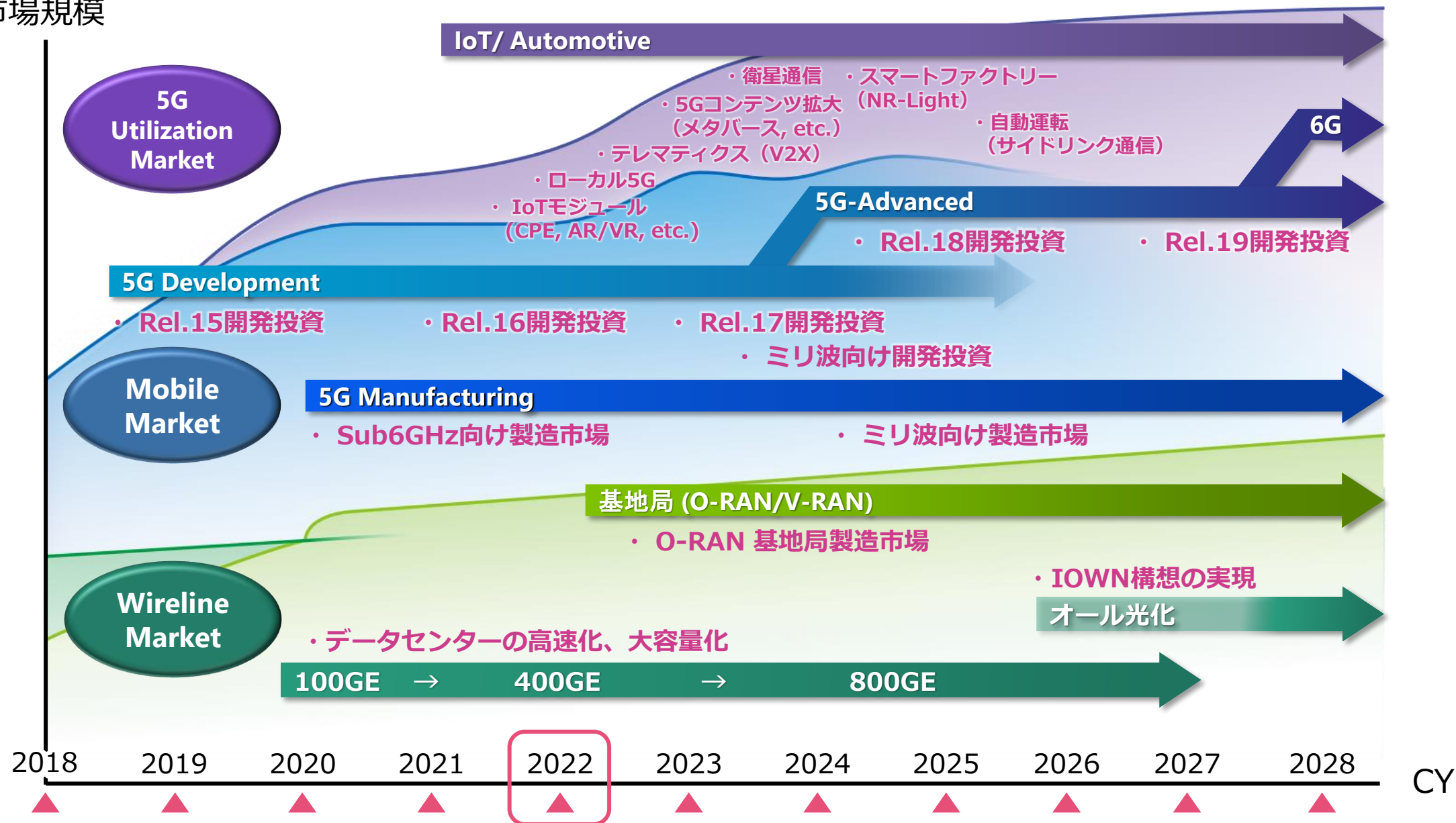
FY2023 計画



グラフはイメージ

4-5. 通信計測市場トレンドと事業機会

市場規模



(CPE: Customer Premises Equipment、顧客構内設備)

4-6. MWC 2022の概要



Mobile World Congress

世界最大のモバイル機器見本市

2022年2月28日～3月3日 バルセロナで開催

主なトピック

- **メタバース/AR/VR**

Tech Mahindra社はメタバースでの自動車販売店、銀行の提供を講演にて発表、SKテレコム社がVRを利用したフライングタクシーを展示

- **FinTech**

5Gの大容量、低遅延にセキュリティ高度化とブロックチェーン技術の組合せることで、FinTechサービスの基盤になると期待

- **ハイパースケーラーの参入**

AWS社やマイクロソフト社などがクラウドを活用した5Gコアネットワークサービスを紹介

- **O-RAN (Open Radio Access Network)**

O-RAN規格をベースにしたソリューションをNTT docomo社やザイリンクス社が披露。コンセプト段階から実装/導入段階に移行

- **5G-Advanced & 6G**

Qualcomm社やZTE社が5G-Advanced向け新ソリューションを発表
NTT docomo社が6G向けの技術を紹介



SKテレコム社のフライングタクシーの展示



Orange社の5Gを利用したゲーム観戦の様子

アンリツブースでの展示品の一部を紹介

Automotive

5G対応車載アプリケーション テストソリューション

with

dSPACE



dSPACE社との共同展示で、
見通しの悪い交差点で車が物や人との衝突を回避するという、5GのV2X機能を用いたデモンストレーションを行った。



5G Release16

5G超高信頼低遅延通信 (URLLC)

with

MEDIATEK

MediaTek社との共同展示で、
リリース16で策定された機能を用いた、5G超高信頼低遅延通信(URLLC)のデモンストレーションを行った。



新機能対応の MT8000A ラジオ
コミュニケーションテストステーション



4-8. GLP2023におけるサステナビリティ目標（SDGs）の進捗状況

	KPI	GLP2023の目標	2021年度実績	進捗
E 環境	● 温室効果ガス (Scope1+2)	2015年度比 23%削減	23%削減（参考値）*	◎
	● 自家発電比率	13%以上	12%（参考値）*	◎
S 社会	● 女性の活躍推進	女性幹部職比率15%以上	10.9%（グローバル、3/末）*	○
	● 障がい者雇用促進	職域開発による法定雇用率 2.3%達成	特例子会社ハピスマ社立上げに より2.54%* 達成（3/末）	◎
	● サプライチェーン DDの強化	3年累積10社以上	6社実施	◎
G ガバナンス	● 取締役会の 多様性の推進	社外取締役比率50%以上	社外取締役比率50%実現	◎

*：それぞれ23.8%、12.6%、11.8%、2.59%から訂正しております。（2022年6月28日）

